

新年の五穀豊穰を願い「弥生画」奉納

当町の元町弥生会（小関優会長）と山道町内会（澁谷信一会長）が、五穀豊穰を願い、穀物の種子を使って描く「弥生画」を制作し、昨年末、鶴田八幡宮と山道閼魔神社にそれぞれ奉納しました。

弥生画は飢饉による犠牲者が相次いだ江戸時代、村人たちが残り少ない種子を板に貼り付けて豊作を祈ったことが始まり。当町では約200年以上続く伝統文化となっており、穀物の種子を貼り付け、その色を生かして絵を仕上げるのが特徴です。

元町弥生会

元町弥生会の題材は「大黒様と亥」。昨年9月下旬から下絵を制作し、11月中旬から、会員らは先端を削った割り箸やピンセットなどを使ってモチ米やウルチ米、黒豆など10数種類の穀物を貼り付け、岩木山を背景に新年の干支である「亥」と「大黒様」を描きました。

小関会長は「一カ月かけて制作してきた弥生画を、今日ようやく奉納することができて嬉しいです。大黒様は特に丁寧に作ったので見てもらいたいです。2018年は米の収量の減少やリンゴの黒星病もありましたが、猪は子孫繁栄、大黒様は五穀豊穰の象徴なので、2019年が豊かな年になれば、という気持ちで制作・奉納しました」と話していました。



△元町弥生会の弥生画「大黒様と亥」

山道町内会

山道町内会では、大小2つの弥生画を制作しており、今回の題材は、七福神の中で漁業・商売繁盛の神様である「恵比寿天」と新年の干支である「亥」。鯛を片手ににっこりと優しい笑顔の恵比寿天が描かれており、その優しい表情を表現するために、山道町内会のベテランの方が長い時間をかけ、丁寧に仕上げました。亥を題材にした弥生画は、山道町内会の子もたちが種子などの貼り付けをしており、これまでの弥生画と違い、かわいらしいカラフルな仕上がりになりました。

澁谷会長は「2018年はイカの不漁やクロマグロの漁獲制限などいろいろありました。新年は、豊漁を願い、魚を食べて健康で長生きしたいという思いで作りました。2019年は猪のように勇猛果敢に困難に立ち向かいたいです」と話していました。



△山道町内会の弥生画「恵比寿天」



△山道町内会の子もたちによる弥生画「亥」

※元町弥生会の弥生画は、現在道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」に展示中。

山道町内会の弥生画「恵比寿天」は、現在道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」に展示されており、「亥」は、4月以降、歴史文化伝承館に約1カ月間展示予定